

# といちくだよい

11月号  
November

発行責任者 / 鎌谷 一也 編集責任者 / 西村 京二 2009(平成21年) 11月号 鳥取県畜産農業協同組合



第5回ジゲ畜産まつりで天竜太鼓を披露されている様子

大量消費 浪費が日本文化 農村を崩壊に導く!

(雑感)

代表理事組合長 鎌谷一也

9月中旬、ヨーロッパに行く。ドイツ・イタリアの農村や都市をみて、古きものを大切に、歴史と伝統を大切に、地域の昔からの有り様を、いな、家 家族の代々の有り様を大切に、美しきふるさとに出会う。

ドイツのバイエルン地方の農村は、単に景色が美しいだけでない。そこでの風景には、古くから脈々と続く歴史と風土に根付く生活と生産が息づいている。厳しい環境を克服し、生産と生活のリンクを壊すことない営み。

絵ハガキのような村の風景。ホコリぼっさ、乱れがない。雑多感がない。よくみると、清掃 整頓だけでなく、花や焚き物、道具などが、村や住居がより美しく、より楽しめるように、工夫されている。

農家民宿にいく。これも、ロッジ風の内装で清潔さや近代的な設備を備えているが、同じ棟の続きは、現在も牛の搾乳牛舎となっていて。古くからの木々をつかった牛舎の中は、やはり清掃が行き届いている。

アルム農業と言われている山岳酪農を営む農家へと山を登る。

標高1163メートル、十数代前から、やっているという農家を訪問。冬は、下界に下りるようだが、5月から10月はずっとここで酪農を行う。標高1400メートルまでの牧草地と林を管理する。牛は、搾乳時だけ牛舎に戻ってくるという。この牛舎も木造で古いが、古い道具を大切に、牛が草地に出た後は、革靴で入れるぐらい整理整頓清掃が行き届いている。

林の木々を間伐した丸太材、薪割りの最中だ。牧童の昔ながらの皮の半ズボンもかっこよい。

なぜか懐かしい。よく考えると、日本の昔もこうでなかったか。私のじいさんは、神経質なほど几帳面で、農作業も含めた日誌を残し、道具の置き場を定め、蔵には張り紙をして整理整頓をキチットしていた。家屋敷の周りは、竹垣を定期に直し、竹箒でよく掃除していた。

土間を隔てて納屋があり、牛がいた。牛の餌のため、毎日、茅などの野草を刈に山や岸辺へ出かけてた。そして、ドイツと同じように、そこには、日本の原風景といわれる農山村の風景があったように思う。

(次ページへ続く)

表紙より続き)

ドイツの農村をみると、決して古いものを捨てるのではなく、大切に、その風土にあった生活を大切にしている。決して物質的にものが溢れているわけでもない。むしろ、生きるために、貧しいがゆえに、知恵を出し、食べ物を作り、加工・保存する。物づくりを大切に。粗末にしない。バランスよく、自然と調和し利用する術(すべ)がいくつもある。

日本も同じでなかったのではなからうか。それを消費第一主義、大量消費の時代の中で、捨て去ってきたのではなからうか。

一体、食文化とはなんだろう。(食のテレビ番組がはやっていっているが、滅び行く砂上の楼閣の繁栄のような気もする。本来の食文化は、生きるための食、その食を創り確保し食べる、という風土との格闘生活の織りなす中で培われるような気がする。

安い食、品揃えもよいが、食べ物の価値をキチッと捉え、高くても、大切に、無駄な摂取をしない、自然に負荷をかけない、自然生物間地域に中での循環を大切にしよう。生活スタイルをもう一度取り戻す必要がありそう。

贅沢や大量消費、画一的な生産構造こそ、社会を貧弱にする。大切に。高い安いは、価値観ではない。

消費ではない、生きるためのものづくりにこそ文化が生まれる。そして、どんどん追われるような生活ではなく、自らの生活空間の整理整頓だけでなく自給農園、花などのガーデニングが楽しめる交流と時間が持てる生活を再生したいものだ。

次ページへ



普通の民家 1



普通の民家 2



農家民宿 宿泊部屋の横は牛舎



農家民宿の周辺 かへルが響く



(前ページより)

## 視察報告 パート1 アルム農業 山岳酪農の報告

農業者 山岳酪農カタリーナケルンさん(右)

標高1163mのアルム農業のための家、普段は谷底の集落に住んでいて5月から10月はじめまでここにいます。冬の時期は氷河の谷の下で暮らしている)

家族 夫婦と子供4人 夫婦で農業(長男が農業を継ぐ)

一体には55軒のアルム農業の農家がある。

少なくとも1180年から、800年以上ここで農業を営んでいる。

この農家は400年前に建てられた。建物の維持、保存の経費の40%をEUが負担している。(前掲載の写真の家)



息子が農業を継ぐことについてケルンさんは…

**「伝統を引き継ぐ意志は、根このように自ら出てくるものですから」**

アルム期間中は牧童が家畜を世話

面積807ha。(うち草地74ha、あとは森林)下から上まで

1400mの高度差がある。

この谷は氷河がつくった。

搾乳牛12頭、育成牛5頭

この他、乳牛4550頭、馬10頭を預託されている(預託料は

1000日以上放牧するのが条件で1シーズン6550頭(頭)

経営の重点は搾乳よりも子牛の生産(5000L年搾乳)

絞った牛乳は毎日谷の下まで持っていく。業者が回収に来る。

バイエルン州独自のKURAPP(農耕景観プログラム)事業による希少な乳牛種の保護

品種はTieolor Grauvieh(テローラ・グ라우ヴィー)

乳量は少ないが、肉としても優良

町の子供達(主にミュンヘン)を対象とした体験プログラム(賞収した隣家の建物を活用)を継続している

67月、小学生14年生を対象に、アルム農業の実際を体験させる

1クラスor2クラス合同の日帰り「食育授業」が週2、3回ある。(乳搾り、草刈り、バターとチーズづくり)

自らチーズとバターを作り、消費者に直接販売

体験プログラム参加者の口コミで販路を確保している

岩盤をくり抜いてつくられた、チーズを熟成するための地下室(年間11ヶ月を維持)

アルムの牛乳にはオメガアミノ酸が多いが、まとめて収乳出荷される

牛乳ではその特徴が出せない。チーズやバターならば、その点をPR

できる。

上記の各種取り組みを11集落55世帯で取り組むことでEUの地域プロジェクト(RDP)野対象となることを目指している。(ルラル・

ヘッブメントプログラム)

農業をやりたい若者は多いが、経営の不安定性や小規模の条件のもと

で事業がうまくいくかが問題。後継者も少ない。だから地域振興のため

のプログラムが必要。現在の小さい規模のまま続けたい。そのため

には、消費者の意識がかわらないといけない。そのような政策を求め

る。

今、森がひろがりすぎている。自分達は森とせめぎあっているが、誰も

その点では保護してはくれない。

(次ページ)



(前ページより)

## 視察報告 パート2 「市民農園 クラインガルデン」

美しき ドイツミュンヘンのクラインガルデン

自分の庭や農地をもつことができない都市住民が庭作りやガーデンパーティー、自家消費用の農産物を自分でつくるために、市から借りている。

美しい建物と庭。日本の家庭菜園の無政府状態とは基本的な考えかたが違つ(宿泊することは禁止されている)

線路の敷地際、河川敷など、公共の遊休地に広大に展開。(ドイツではありふれたもの)

ドイツの農村風景や市民農園をみると、本当に国民性なのか。整然として、美しい。

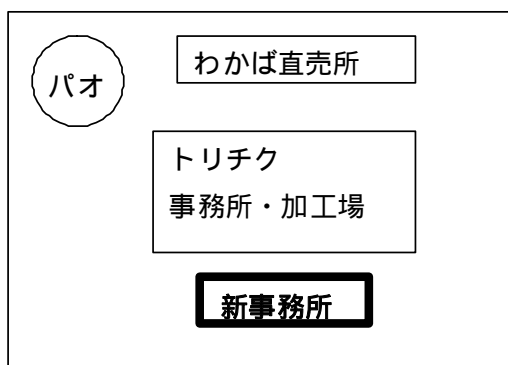
我がフレッシュパーク若葉台も花でいっぱいになりたいと思う。



## 株式会社美楽牧場・株式会社東部コントラクター事務所移転しました。

電話番号(0857)52-1140

FAX 番号(0857)52-5065(新設)



入口

入口

よろしく願いいたします。

## 若葉台小学校稲刈り

総務事務管理部 森田

10月16日(金)に若葉台小学校5年生の生徒、先生方達と、田んぼをお借りしている福田さん、畜産農家のお母さん、環境大学学生さん、東部コントラクターの方達と一緒に稲刈りを行いました。とてもいい天気にもまれて作業もしやすかったです。子ども達も稲刈りを楽しみ、自然を楽しんでいたように思いました。

私事ですが、子ども達が稲刈りして集めていた稲の結束作業をしてみました。なかなか上手にできなくて苦労しましたが、何回も作業をしているうちにだんだん慣れてきて、上手に出来るようになりました。結束した稲を稲木にかけると作業もなかなか大変な作業なので、昔の人は大変な作業をしたんだと今更ですが、感心しました。作業後は、美敷牧場のアイスクリームをいただきました。とても、おいしかったです。

お手伝いして下さった皆様お忙しい中、稲刈りに参加していただきましてありがとうございます。



## 第5回ジゲ畜産まつり

京都・県生協担当兼総務事務管理部マネージャー 山本

10月18日(日)に鳥取県畜産農協若葉台広場において、第5回「ジゲ畜産ふれあいまつり」を開催しました。本年度は天候も良くお客様の数も多く大変な賑わいとなりました。

組合長・副市長・JA中央会会長の挨拶にはじまり、和太鼓の演奏、ゲームと内容も盛りだくさんとなりました。

地元の新鮮素材の美味しい「サイコロステーキ」「牛丼」「コロツケ」「もち」などが1食100円と大変安く、20メートルもの行列が出来るほどとなりました。

また、ゲームでも行列となり、ゲームに参加出来ない方が出るほどでした。ゲームの中では「乳搾り競争」が最も人気があり、ゲーム終了後も引き続き「乳搾り体験」を楽しむ子供さんがいました。今回も、酪農婦人部の皆さんをはじめ、関係団体、役職員の協力で畜産まつりを盛り上げることが出来ました。



## 10月の主な日程

日付	行事
10月 1日	夕礼、ISO全体集会
10月16日	若葉台小学校稲刈り
10月18日	ジゲ畜産まつり
10月19日	総務委員会
10月20日	生産委員会
10月25日	旬感キャッチ放送日 第1回バラ色テーブル
10月26日	理事会

## 11月の主な日程

日付	行事
11月 2日	夕礼、ISO全体集会
11月23日	特別委員会



### とりちくの各部署職員

紹介コーナー

組合員皆さんには日頃より当組合の事業にたいして日頃より、「ご理解、ご協力を賜りありがとうございます。」  
今回は第2加工の職員を紹介します。

後列右から

城口職員

谷口職員

林職員

植木職員

前田職員

前列右から

原田職員

森マネージャー

前田主任

ウリジ研修生



## 編集後記

10月はジゲ畜産まつり、環境大学でバラ色テーブルと大きなイベントが2週連続で開催されました。

また、たくさんの皆様にご来場いただき、ありがとうございます。

少し前まで半そでを外に出ていましたが、ここ最近急に寒くなってきたような気がします。

衣替えと、暖房器具の準備と今以上に運動不足にならないように気をつけて生活していかないといいと思います。

また、インフルエンザが流行しているので、風邪やインフルエンザにかからないよう家庭や自分の体調管理を十分していただきますようお願いいたします。

(もりた)

## お問い合わせ先

### 鳥取県畜産農業協同組合

住所：鳥取市若葉台南7丁目2番11号

Tel:0857-52-1129

Fax:0857-52-1131

e-mail:info@torichiku.or.jp

HP:http://www.torichiku.or.jp